

1 生育の状況

7 月 15 現在の水稻生育状況(きらら 397) 3 市町平均値

水稻の生育は、7 月 15 日現在で平年より 2 日遅れております(昨年より 1 日早い)。「きらら 397」では今月末には出穂期を迎える見込みです。

	草 丈	葉 数	m ² 茎数	出穂期
本 年	55.8 cm	10.7 枚	954 本	
平 年	57.9 cm	10.9 枚	800 本	7/27
差	-2.1 cm	-0.2 枚	+154 本	

基幹防除1回目は7月27日～8月1日ごろが適期と思われます。

※今年は生育のほ場間が大きいので、必ず各自で出穂期を確認してください。

2 いもち病の発生に注意

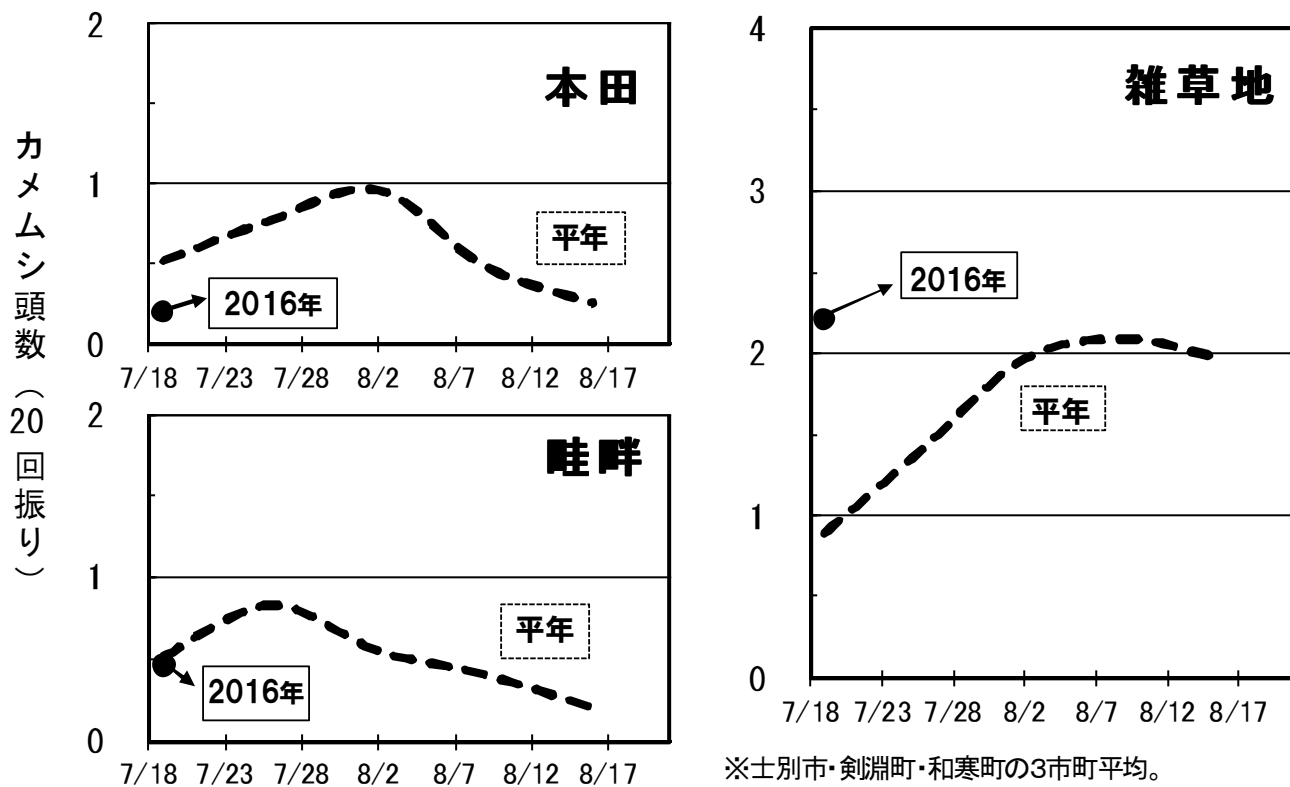
いもち病の被害を抑えるためには、早期の発見と対策が不可欠となります。畦畔からいもち病の発生が確認できる状態では手遅れです。水田に入って発生の有無を確認しましょう。

- ① 葉色の濃い過繁茂のイネ、山際、建物や防風林の陰など湿気がたまりやすい場所を中心に下葉を観察する。特に、常発田や昨年多発した水田では注意。
- ② まん延後では薬剤防除の効果が劣るため、葉いもちの発生を見つけた場合や1回目の基幹防除では、治療効果のある茎葉散布剤(ダブルカット・ブラシンなど)を散布する。
- ③ いもち病と疑わしい株を見つけた際には、発病しているか判断しますので、JA または普及センターまで株を持参ください(葉だけでなく、株を根ごと抜き取る)。

3 カメムシの発生状況

現在の地域のカメムシの発生状況は、本田で少ない、畦畔で平年並、雑草地で多い傾向にあります。畦畔から本田への飛び込みを最小限にするために、出穂までに畦畔・雑草地など生息場所の雑草の刈り取りを済ませ、今後の予察情報などに注意をしてください。

JA北ひびき カメムシ予察調査報告結果



※士別市・剣淵町・和寒町の3市町平均。
平年は2008～2015年の平均値。

4 農薬の適正使用

- ① 農薬の飛散を防ぐため、粉剤の使用は避け、液剤や粒剤、豆つぶ剤などで対応しましょう。
- ② 水田周辺に他作物栽培農家や養蜂業者がいる場合は特に注意し、あらかじめ薬剤の散布の方法や時間帯、ハウスの開け閉めなどについて連絡をとりあうなどの配慮をお願いします。
- ③ 農薬の散布は、みつばちの活動がもっとも盛んな時間帯（午前8～12時）を避け、早朝や夕刻に実施しましょう。
- ④ 無人ヘリや乗用管理機で防除する場合も、適切な条件（風の影響・ノズル圧の調整等）下でドリフトを防ぎましょう。